

テーマ：貿易統計（2011年9月）
 ～7-9月期の外需寄与度は大幅プラスに～

発表日：2011年10月24日（月）

第一生命経済研究所 経済調査部
 担当 主席エコノミスト 新家 義貴
 TEL：03-5221-4528

	貿易収支(億円)				輸出数量						輸入数量				
	原数値	季調値	金額		アメリカ			EU	アジア		アメリカ			EU	アジア
			前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比		
10	1月	431	5593	40.9	9.3	41.3	17.8	14.0	63.6	2.2	3.6	▲0.5	5.6		
	2月	6383	4786	45.3	29.8	45.9	46.1	15.4	53.4	23.0	4.5	13.7	39.5		
	3月	9319	8398	43.4	21.0	43.9	29.4	28.2	48.9	17.0	6.3	16.5	17.6		
	4月	7292	8776	40.4	24.5	39.6	38.2	32.3	40.6	17.7	21.2	13.1	19.8		
	5月	3091	5304	32.1	33.7	31.8	19.3	34.6	28.2	22.3	24.7	22.2	27.5		
	6月	6705	5246	27.7	26.5	27.4	27.4	27.0	26.6	18.1	24.9	23.5	19.2		
	7月	7846	5757	23.5	16.1	25.5	27.5	31.5	22.9	13.9	22.0	23.9	14.3		
	8月	638	5609	15.5	18.4	14.2	11.5	26.7	14.6	19.2	18.1	16.5	20.9		
	9月	7743	4418	14.3	10.3	16.1	17.0	29.1	14.6	10.6	7.5	10.0	13.4		
	10月	8126	4961	7.8	8.9	5.3	9.5	11.3	5.9	5.8	▲11.1	11.5	7.9		
	11月	1576	3592	9.1	14.3	9.1	11.1	25.8	11.3	15.4	20.8	1.8	19.7		
	12月	7196	3478	12.9	10.7	11.4	16.3	22.1	11.6	7.8	▲1.9	3.1	10.7		
11	1月	▲4794	1269	1.4	12.2	2.3	14.5	13.4	▲1.8	11.2	5.9	6.3	13.6		
	2月	6503	4655	9.0	10.0	9.2	3.7	22.1	11.0	4.9	10.9	9.5	4.1		
	3月	1863	448	▲2.3	12.0	▲3.3	0.9	8.4	▲1.1	5.5	1.6	▲5.7	14.4		
	4月	▲4677	▲4355	▲12.4	9.0	▲11.6	▲21.2	▲8.5	▲6.4	1.3	7.5	18.9	1.8		
	5月	▲8573	▲4483	▲10.3	12.4	▲10.8	▲9.9	▲12.3	▲7.9	5.5	13.7	4.7	6.1		
	6月	673	▲1942	▲1.6	9.8	▲2.7	▲2.5	2.2	▲2.5	1.7	▲1.0	▲1.9	5.1		
	7月	679	▲1298	▲3.4	9.9	▲5.3	▲5.7	1.8	▲4.7	▲2.6	▲4.3	2.2	0.5		
	8月	▲7772	▲2652	2.8	19.2	0.9	6.1	4.2	▲1.8	6.0	12.4	9.4	8.6		
	9月	3004	▲218	2.4	12.1	1.8	▲0.4	3.7	▲2.3	0.9	3.7	10.0	0.5		

(出所)財務省「貿易統計」

○ 輸出はコンセンサスを上回る

財務省より発表された2011年9月の貿易統計では、輸出金額が前年比+2.4%となり、市場予想（前年比+1.0%、当社予想：0.0%）を上回った。輸出金額の季節調整値も前月比+2.0%（8月：同+0.3%）、物価変動の影響を除いた実質輸出で見ても前月比+1.3%（8月：同+2.4%）と増加している（実質化と季節調整は当社）。現時点で輸出は腰折れするには至っておらず、緩やかに増加していることが確認されたことはポジティブに受け止めて良いだろう。もっとも、5、6月に見られたような急上昇局面と比べると、足元で増勢が鈍化している状況は変わっていない。サプライチェーン復旧に伴う押し上げが一巡していることや、海外需要の減速、IT部門の低迷等が背景にあると考えられる。先行きについても、海外景気減速の影響が一段と強まることが予想されることに加え、円高の悪影響も次第に顕在化する可能性が高いことなどを考えると、減速感が強まっていくことが予想される。海外経済動向次第では下振れも十分想定される状況である。

○ 貿易収支は2ヶ月ぶりの黒字も、季節調整値では依然赤字

貿易収支は3004億円の黒字となった（事前予想は1980億円の赤字）。黒字は2ヶ月ぶりである。ただし、季節調整値では218億円の赤字（8月は2652億円の赤字）であり、赤字幅こそ縮小しているものの、6ヶ月連続の赤字となっている。貿易収支の実勢を把握するためには季節調整値で判断することが適当であり、9月の段階で貿易収支が黒字基調に戻ったとは言い難い。先行きについても、輸出の減速が予想されるなか、貿易収支が明確に改善していけるかどうかは予断を許さない。

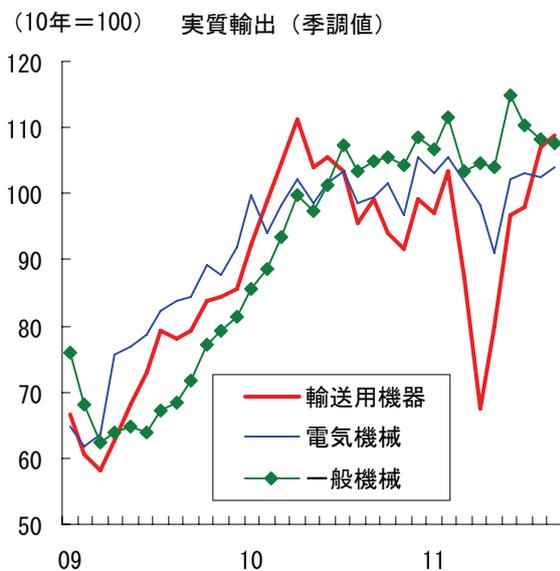
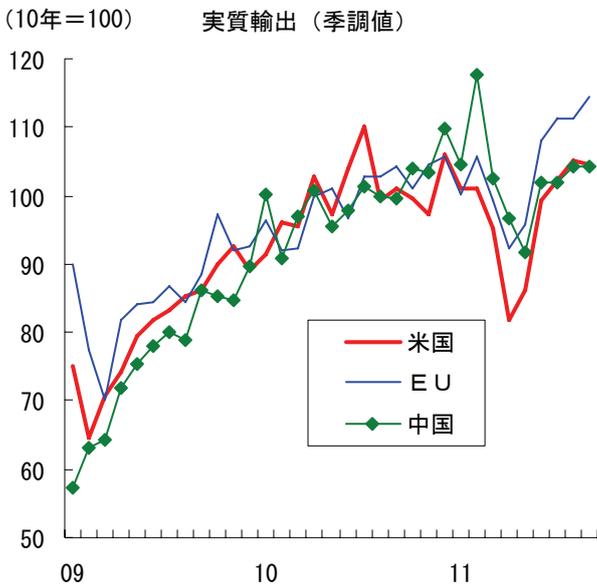
○ 7-9月期の外需寄与度は大幅プラスに

貿易統計の結果を踏まえて試算すると、7-9月期のGDPベース実質輸出は前期比+6.7%、実質輸入は同+3.7%となった。4-6月期には外需寄与度が前期比▲0.8%ポイントとなり、GDPを大きく押し下げていたが、7-9月期には外需がGDPを大幅に押し上げることになるだろう。ただし、輸出の大幅増加については、5、6月の急上昇に伴うゲタの影響が大きく、月次で見れば増勢が鈍化していることには注意が必要である。輸入については、燃料需要の増加などにより高い伸びになったとみられる。

○ 地域別の状況

9月の実質輸出を財別に見ると、輸送用機器は前月比+1.7%（8月：同+9.3%）と5ヶ月連続で増加した。5、6月の急激な増加と比べると増加ペースは鈍化しているが、低水準にある海外在庫の復元の動きが押し上げ要因となっており、増加基調は途切れていない。また、一般機械は前月比▲0.7%（8月：同▲1.7%）と3ヶ月連続の減少となっている。一般機械は、震災後の落ち込みは小さかったものの、足元では軟調な推移となっている。海外（特に中国）での需要減少の影響を受けたものと思われる。電気機械は前月比+1.5%（8月：同▲0.5%）と増加したが、均してみると低調に推移している。世界的にIT部門が調整局面にあることから、日本からの電子部品輸出も低迷している。

実質輸出を地域別にみると、米国向けが前月比▲0.8%（8月：同+2.8%）、EU向けが同+2.8%（8月：同0.0%）、アジア向けが同+0.5%（8月：同+1.3%）となっている。また、アジアの内訳では、中国向けが同0.0%（8月：同+2.3%）、NIEs向けが同▲2.7%（8月：同+0.5%）、ASEAN向けが同+4.8%（8月：同+0.2%）である。米国向け、EU向けについては増勢を鈍化させながらも回復傾向が続いており、震災前の2月の水準をそれぞれ3.5%、8.2%上回っている。もっとも先行きについては、景気減速の影響が顕在化することが予想され、輸出はさらに鈍化することが予想される。在庫補填のための自動車輸出増が下支えになると思われるが、過度の期待は禁物だろう。アジア向けについては、震災前の2月の水準を6%下回っており、回復が遅れている。中でも中国向けは2月の水準を11.5%も下回っており、金融引締めの影響等が出ていることが窺える。



(出所) 財務省「貿易統計」

(注) 実質化と季節調整は第一生命経済研究所